

インマヌエル中目黒キリスト教会

2016年7月17日聖日礼拝

エステル記連講(4)

「もしかすると、この時のため」

エステル記

4章1節～17節

竿代照夫牧師

聖書朗読 旧約聖書

エステル記 4章1節～17節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会)を使用しています
第二版の聖書は 770 ページ
第三版の聖書は 840 ページ

- 1 モルデカイは、なされたすべてのことを知った。すると、モルデカイは着物を引き裂き、荒布をまとい、灰をかぶり、大声でひどくわめき叫びながら町の真ん中に出て行き、
- 2 王の門の前まで来た。だれも荒布をまとったままでは、王の門に入ることができなかつたからである。
- 3 王の命令とその法令が届いたどの州においても、ユダヤ人のうちに大きな悲しみと、断食と、泣き声と、嘆きとが起こり、多くの者は荒布を着て灰の上にすわった。

- 4 そのとき、エステルの侍女たちと、その宦官たちが入って来て、彼女にこのことを告げたので、王妃はひどく悲しみ、モルデカイに着物を送って、それを着させ、荒布を脱がせようとしたが、彼はそれを受け取らなかった。
- 5 そこでエステルは、王の宦官のひとりで、王が彼女に仕えさせるために任命していたハタクを呼び寄せ、モルデカイのところへ行って、これはどういうわけか、また何のためかと聞いて来るように命じた。

- 6 それで、ハタクは王の門の前の町の広場にいるモルデカイのところに出て行った。
- 7 モルデカイは自分の身に起こったことを全部、彼に告げ、ハマソグがユダヤ人を滅ぼすために、王の金庫に納めると約束した正確な金額をも告げた。
- 8 モルデカイはまた、ユダヤ人を滅ぼすためにシュシヤンで発布された法令の文書の写しをハタクに渡し、それをエステルに見せて、事情を知らせてくれと言い、また、彼女が王のところに行って、自分の民族のために王にあわれみを求めるよ

うに彼女に言いつけてくれと頼んだ。

9 ハタクは帰って来て、モルデカイの伝言をエステルに伝えた。

10 するとエステルはハタクに命じて、モルデカイにこう伝えさせた。

11 「王の家臣も、王の諸州の民族もみな、男でも女でも、だれでも、召されないで内庭に入り、王のところに行く者は死刑に処せられるという一つの法令があることを知っております。しかし、王がその者に金の笏を差し伸ばせば、その者は生きます。でも、私はこの三十日間、まだ、

王のところへ行くようにと召されています。」

12 彼がエステルのことばをモルデカイに伝えると、

13 モルデカイはエステルに返事を送って言った。「あなたはすべてのユダヤ人から離れて王宮にいるから助かるだろうと考えてはならない。

14 もし、あなたがこのような時に沈黙を守るなら、別の所から、助けと救いがユダヤ人のために起ころう。しかしあなたも、あなたの父の家も滅びよう。あなた

がこの王国に来たのは、もしかすると、この時のためであるかもしれない。」

15 エステルはモルデカイに返事を送って言った。

16 「行って、シュシャンにいるユダヤ人をみな集め、私のために断食をしてください。三日三晩、食べたり飲んだりしないように。私も、私の侍女たちも、同じように断食をしましょう。たとえ法令にそむいても私は王のところへまいります。私は、死ななければならないのでしたら、死にます。」

17 そこで、モルデカイは出て行って、エ
ステルが彼に命じたとおりにした。

説教

エステル記連講（４）

「もしかすると、この時のため」

エステル記

４章 １節～１７節

竿代照夫牧師

主テキスト

もし、あなたがこのような時に沈黙を守るなら、別の所から、助けと救いがユダヤ人のために起ころう。しかしあなたも、あなたの父の家も滅びよう。あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、この時のためであるかもしれない。」（エステル4：14）

1.(先週)モルデカイと全ユダヤ人の嘆き(1～3節)

- ・世俗権威と信仰の対立
- ・ホロコースト命令とユダヤ人の嘆き

2. エステルの心配と問い合わせ(4~8節)

- ・ エステルの配慮：
「荒布ではなく着物を」
- ・ モルデカイの伝言：
「王に直訴を」

3. エステルの躊躇 (9 ~ 11 節)

- ・ 王への無断接近は死刑
- ・ 自分は今遠ざけられている

4. モルデカイの警告 (12 ~ 14 節)

- ・ 危機を認識せよ：
 - エステルも安泰ではない
 - 神は別に助けを起こし得る
 - しかし、エステルも家族も滅びる
 - 自分の破格昇進の目的は「この時のため」と考えよ
- ・ エステルの熟慮と主体的決断

5. エステルの決断(15 ~ 17節)

- ・ 決断の前提: 全ユダヤ人の一体的祈り
- ・ 死を賭して王に直訴する！
「我もし死ぬべくば死ぬべし」
“If I perish, I perish” = 自我の死

5. エステルの決断(15 ~ 17節)

- ・ 自我の死は聖化経験の真髄: 範例として

マリヤ(ルカ1:38)

「あなたのおことばどおり、この身に」

主イエス(ルカ22:42)

「私の願いではなく、み心の通りに」

アブラハム(創世記22:2)

「あなたの愛している独り子イサク…
をささげなさい」

- ・ モルデカイの応答

三日間の集中的祈りを指導

おわりに:

私の今の立場を
高く値積もり、
その意味・目的を
考えよう